

報 告 書

開催日時	平成 25 年 11 月 21 日 (木) 午後 7 時～8 時	
開催場所	横田中学校	
出席議員	挨拶 及川修一班長 (教育民生常任委員会委員長)	
	司会進行	大坪涼子
	報告者	及川修一
	記録者	鵜浦昌也
	議員	大坂俊、松田信之、清水幸男
参加人数	市民 5 人、教諭 3 人	
懇談テーマ	震災後の学校施設の整備状況について	
主な要望・提言等	<p>1. 生徒の中には竹駒から通っている子もいて、幹線道路への防犯灯の設置をお願いしたい。中学校の体育館は雨漏りし、修理が必要。</p> <p>2. 雨漏りに関し、市教委と業者に来てもらい、漏れている場所を確認した。いずれ修理してもらえと思うが、いつになるか分からない。生徒もどこが漏るのか分かっており、雨が降ると近づかないようにしている。</p> <p>3. 市の復興工事について知りたい。</p> <p>4. 道路の要所要所に防犯灯を設置してほしい。最近は電気代がかからないソーラー式のものもあり、対応してほしい。今後、コメンセンと連動して要望していきたい。</p> <p>5. 防犯灯や街灯について、電球が切れている箇所がある。それを LED に変えるなど、電気代がかからないようにしてほしい。旧高田高校の校舎付近に見晴台ができたようだが、高田高校はいつできるのか。新校舎の建設と同時に野球部も校舎前のグラウンドで練習できるのか心配。</p> <p>6. 校庭が使えず、新しいグラウンドを整備してもらい、生徒たちは生き生きと学校生活を送っている。しかし、グラウンドに用具を収納できる場所がないので苦労している。グラウンド整備に伴い、部活動の支援バスがなくなるかが心配。今後も継続してほしい。</p> <p>7. 小学校ではトイレを洋式化してもらい喜んでいる。一年生などは汲み取り式のトイレを怖がっていたので良かった。小学校も体育館が雨漏りしており何とかしてほしい。仮設グラウンドに行くためには市道を横切らなければならない状況で、体育の時など、職員が道路で見守りをしている。横断歩道は整備できないらしく、ノボリなどを設置しよ</p>	

	<p>うかと検討している。</p> <p>8. バレースポ少で体育館を使用しているが、夜に緊急地震速報が出された場合など、体育館でも受信できるようにしてほしい。</p> <p>9. 横田中は震災がなければ一中と統合する予定だったが、一中の現状はグラウンドが仮設であり、交通安全面をはじめ復興に向けたインフラ整備や高台移転が途中の段階。この時期の統合ではないと思う。</p> <p>10. 小規模校にはそれなりの良さがあり、文化祭や運動会など、子どもたちは何役もこなしながら活躍している。学校は小規模、大規模など、人数で比べるのではなく、思春期にどういう状況で過ごすかが大切。多くの生徒の中で埋もれてしまうよりもいいのではないか。一中に統合するのではなく、気仙中と統合してはどうかと思う。統合を進めるならば横田中、気仙中、一中のPTA役員が合同で話し合うのもいいのではないか。</p> <p>11. 市教委は将来的に市内の中学校を二校にする方針を出している。保護者に意見を聞く場を設けているが、市教委は一中に統合させたい意向があからさま。そのことに対し、PTAの間に不満がある。</p> <p>12. 安全な場所にある横田中から安全でない一中に通うのは疑問。</p> <p>13. 横田小から一中に進学したいという子はクラブ活動がしたいため、今後、学校の枠を超えてチーム編成するやり方も検討していくべきではないか。親としては地元中学校があるのに、クラブ活動がしたいためにわざわざと思っているが、子どもの意欲を抑えてまで地元中学校に行けとは言えない。親も苦勞している。居住している地元行事にも参加しにくくなっているようだ。小規模でも社会に出てからの適応能力を養うことが出来る。そのようなことも考慮しながら今後の適正規模化を考えてほしい。</p>
<p>所 感</p>	<p>【及川修一】</p> <p>仮設の運動場ができてありがたいとしながら、照明、倉庫、水道などの完備や老朽化した体育館等の施設整備が訴えられた。</p> <p>また、東中学校と同様、支援バスの継続を訴える声が強く感じられた。</p> <p>【大坪涼子】</p> <p>震災によって学校には直接の影響はなかったようだが、校庭に仮設住宅が建ち、仮設運動場が遠く離れていることによって、子どもたちの様子が見えないという声を聞き、震災による影響を感じた。要望してきたトイレの水洗化は子どもたちも喜ばれていると聞いた。</p> <p>【鵜浦昌也】</p> <p>小規模校ならではの様々なメリットを聞かされた。その半面、大規模</p>

校の良さもあるだけに、今後の適正規模化を考えていく上での難しさを痛感した。

【大坂 俊】

横田地区は、市内で唯一被災を免れた町であるためか、出る要望や意見は他の地区との違いが感じられ、復興計画のみでの対応では限界があるのではないかと思われた。

【松田信之】

直接的な震災を受けていないが、施設の雨漏りや防犯灯の設置、備品や施設の整備など様々な要望を受けた。

小規模校としての良さについて、多くの得られないものがあると感じた。報告会の周知に課題があった。

【清水幸男】

震災により市内すべての屋外運動施設が仮設対応を余儀なくされているが、部活の制限や防犯、交通安全対策等新たな課題もあげられる。

中学校は現在27名の生徒数で様々な課題もあるが、小規模校なりの利点も検討しつつ、子どもたちの将来を見据えた協議が必要である。

陸前高田市議会 議会広聴広報特別委員会

広聴小委員会小委員長 松田 信之 殿

平成25年12月2日

陸前高田市議会議会報告会開催要綱第10条第1項の規定により提出します。

平成25年度議会報告会2班（教民班）

班長 及川 修一

